



# 子供が学びをつくる 国語 (読むこと)

国語

国語の目指す「自らの学びをメタ認知」しながら学び続ける子供	
課題設定	<p>日常生活の中で様々な文章に出合ったときに、言葉と言葉のつながりや、文と文のつながり等に着目して読み、文章のおもしろさや表現のおもしろさを感じながら、課題を設定することができる。</p> <p>(1) 様々な文章に出合ったときに、目的意識と相手意識を明確にして、何のために読むのかということを理解することができる。</p> <p>① 文章との出会いの際に、なぜ(目的)その文章を読むのかということを確認にする。</p> <p>② 目的意識と相手意識を明確にした上で、どのようなプロセスでゴールに向かうのかを理解する。</p> <p>(2) 様々な文章を読む際に、言葉と言葉のつながりや、文と文のつながり等に着目して読み、文章のおもしろさや表現のおもしろさに気付くことができる。そして、自分の興味や疑問を基に課題を設定することができる。</p> <p>① 文章を読む際に、言葉と言葉のつながりや、文と文のつながり等に着目して読む。それにより、文章のおもしろさや表現のおもしろさに気付くことができる。</p> <p>② 文章のおもしろさや表現のおもしろさを感じながら読むことを通して、文章への興味や疑問をもつ。それを基に課題を設定する。</p>
課題追究	<p>課題追究の際に、追究方略や追究形態を選択することができる。また、他者と対話し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。そして、課題追究過程で、追究方略や追究形態を振り返ったり、再選択したりすることができる。</p> <p>(1) 課題追究の際に、追究方略や追究形態を選択することができる。また、他者と対話し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>① 課題追究の際に、追究方略や追究形態を選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を追究するには一人で考えたほうがよいのか、複数で考えたほうがよいのか、また、書きながら考えたほうがよいのか、話し合いながら考えたほうがよいのか等について選択する。</li> <li>・ 他者と対話する中で、自分の考えと他者の考えを比較し、共通点や相違点を明確にして、自分の考えを広げたり深めたりする。</li> </ul> <p>(2) 課題追究過程で、追究方略や追究形態を振り返ったり、再選択したりすることができる。</p> <p>① 課題追究に、自分が選択した追究方略や追究形態が適していないと判断した場合は、改めて追究方略や追究形態の選択を行う。</p>
パフォーマンス	<p>追究結果を、目的意識や相手意識を明確にして、身に付けた国語(読む・書く・話す・聞く)の知識や技能を生かして表現することができる。また、聞き手や読み手からの評価を受けて、表現を修正したり、次の表現に生かしたりすることができる。</p> <p>(1) 追究結果を、目的意識や相手意識を明確にして、身に付けた国語(読む・書く・話す・聞く)の知識や技能を生かして表現することができる。</p> <p>① 表現の目的(「何のために」)と相手(「だれに」)を明確にする。</p> <p>② 目的と相手に合わせて、どのような表現方法が適しているかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作文、新聞、POP、朗読、劇、ペープサート等。</li> </ul> <p>③ 身に付けた国語の知識や技能を活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手に伝わりやすい話し方(声の大きさ、話す速さ、話す順序等)</li> <li>・ 相手に伝わりやすい書き方(文章の構成、レイアウト、文字の大きさ等)</li> </ul> <p>(2) 聞き手や読み手からの評価を受けて、表現を修正したり、次の表現に生かしたりすることができる。</p> <p>① 聞き手や読み手から感想や意見を聞き、自分の表現を見直し、修正する。</p> <p>② 聞き手や読み手の感想や意見を次の表現に生かす。</p>

# ～自己を見つめ、学びの主体者となる子供～

## 日常生活の課題

国語を尊重する態度  
 国語日の目標や内容  
 内面的な生き方  
 伝統と文化  
 国を愛することや国際理解や協調

整理

総合

学活

社会 理科 算数 英語 家庭 体育 音楽 図工 道徳

国語

興味・疑問

課題設定

単元LV

小単元LV

## 課題追究

課題に応じて、  
 追究方略・追究形態を選択する



個人

ペア

グループ

書く

対話

比較

自己を  
 モニタリング

## パフォーマンス

追究結果を表現する。  
 評価を受けて修正する。

何のために

誰に

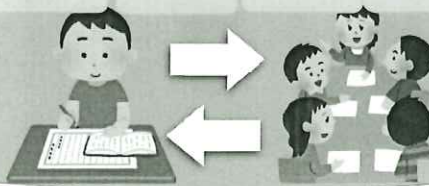
どのような表現で

新聞

POP

朗読

劇



身に付けた国語の力を  
 新たな学びに生かす

## 目指す姿を実現する支援例

### 【目的意識と相手意識を明確にするために支援する】

- 文章との出合いの場面で、子供が“なぜ読むのか”ということを理解することができるように、単元のゴールを教師と子供で共通理解する。

### 【言葉と言葉、文と文のつながりに着目できるように支援する】

- 文章を読む際に、中心となる言葉や文に着目し、その言葉や文から文章の理解を深めるように促す。それにより、文章のおもしろさや表現のおもしろさを感じられるように支援する。

### 【興味や疑問を基に課題を設定できるように支援する】

- 文章のおもしろさや表現のおもしろさを感じながら読む中で、子供の興味や疑問が生じるように問いかけ等を行う。

### 【追究方略や追究形態を選択できるように支援する】

- 自力追究、ペア追究、グループ追究を習得できるように支援する。また、追究方略として自力、ペア、グループの内、どの方法がよいかを自分で判断できるように促す。

### 【他者との対話を通して考えを広げたり深めたりできるように支援する】

- 子供が「友達と対話したい」と思えるような状況をつくり、対話場面を設定する。そして、対話を通して自分の考えと他者の考えを比較するように促す。

### 【選択した追究方略や追究形態を振り返ったり、再選択したりできるように支援する】

- 選択した追究方略や追究形態を振り返り、適しているのかを判断する場面を設定する。また、適していない場合には修正したり再選択したりする場面を設定する。単元導入時に、追究方略や追究形態について選択する活動を設定し、見直しをもって活動に取り組みできるようにする。

### 【子供が追究結果を表現することができるよう支援する】

- 目的と相手に応じて、どのような表現方法を選択したらよいか吟味するように促す。
- ペア、グループで相談して、適した方法を選択するよう促す。

### 【身に付けた国語の力を生かすことができるように支援する】

- 国語科の授業だけでなく、様々な場面に「読む・書く・話す・聞く」の活動を取り入れていく。

### 【聞き手や読み手からの評価を生かすことができるように支援する】

- 追究結果を表現した際に、聞き手や読み手から感想(評価)を受ける場を設定し、表現を振り返ることを促す。

国語科（読むこと）担当：真田 武知